

ご視聴の皆さまへ

- 配信動画および資料の著作権は、横浜市リハビリテーション事業団が保有します。
- 動画および資料の無断転載、複製、転用、販売等の二次利用は、固く禁じます。
- この配信動画は、当センター利用者の保護者の方のみ視聴可能です。
- 第三者に動画および付属資料の URL を拡散することはお控えください。



ご視聴の皆さまへ

配信動画および資料の著作権は、横浜市リハビリテーション事業団が保有します。

動画および資料の無断転載、複製、転用、販売等の二次利用は、固く禁じます。

この配信動画は、当センター利用者の保護者の方のみ視聴可能です。

第三者に動画および付属資料の URL を拡散することはお控えください。

どうして
学校の勉強がうまくいかないの・・・？



横浜市リハビリテーション事業団
言語聴覚士



この講座でお話しすること

- ☆ 学校の勉強がうまくいかないことの背景にあるもの
- ☆ 「勉強」へのサポート
今回は特に「読み」「書き」について

今回の講座の中でお話しすることは
学校の勉強がうまくいかないことの背景に何があるのかを考えたいと思います。

その上で勉強の中でも特に「読み書き」に対してどういったサポートをして
けるといいかについてお話しします。



学校の勉強がうまくいかない・・・



お子さんの持つ難しさ、つまりきはそれぞれ。
その背景について考えていきましょう。



西部センターでは小学生のお子さんを持つ保護者の方から相談をお受けすることが多いのですが、
その中でも学校の勉強に関する相談は少なくありません。

「宿題をやらない、提出していない」「授業中違うことをしていると
言われた」「学校のノートを書いていない」などいろいろな相談が上がります。

そういった学校での勉強の難しさについて、保護者の方は「忘れてしまっ
ただけなのかな？」 「聞いていないだけ」 「集中力ややる気の問題」と捉え
がちです。

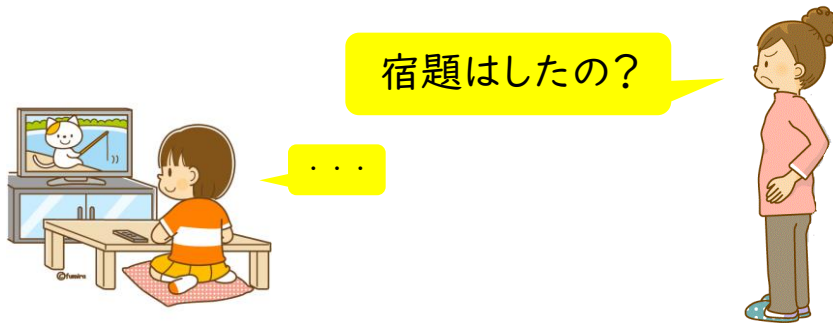
確かにお子さんの行動だけみると、「やりたがらない」という本人の意欲の
なさが問題で、「やらないからできないのでは」という結論になりがちです。

でももしかしたらお子さんが何か難しさを抱えているのかもしれませんが。そ
してそのつまりきポイントは人それぞれです。

今日は、そういった、学習をする上での、具体的なつまりきポイントを考え
て、どのような対応や工夫をしていけばいいのか、考えていきたいと思いま
す。

保護者の方から多くお受けするご相談・・・

「宿題」をしたがらない



「宿題」をめぐって、深刻な親子関係の問題になっているご家庭も少なくない・・・



よく相談に上がることに宿題に関する事があります。
帰宅した時、おやつ前、夕食前、入浴前…、とずっと、声掛けをして促しても取り組まず、最終的に夜の寝る前になって、やっとしかりつけて、いやいややり始め、寝る時間が遅くなる…ということが、毎日になってしまい、親御さんもうんざりしている、ということをお話しされる方もいます。
宿題が親子関係の問題になってしまっているご家庭もあるようです

保護者の方から多くお受けするご相談・・・

ノートや連絡帳を書いてこない



ノートや連絡帳を書かないことで、忘れ物が多くなってしまう
書かないことを注意されることも負担感



学校のことで、ノートや連絡帳を書いてこないこともよく相談に上がります。
連絡帳に何も書かないので、持ち物、宿題のこともわからなかいので、忘れ物で叱られることも増えてしまう。、、
板書を取らないので、ノートが真っ白、
作文は、書くまでがとても大変。書いてもひらがなだけで、漢字を使わないので、提出すると、赤ペンで修正が入り、その直しも大変。漢字ドリルをさせることが大変、、等。
などなど、書くことの苦手さについてのご相談もさまざまです。



お子さんがどうして宿題をやらないのか、どうしてノートや連絡帳を書いてこないのか、それらについてお子さんの視点から考えてみましょう。

まず学校の授業、宿題の内容が難しくてわからない、一人ではできない、自信がないといったこともあります。

★この場合もしかしたら知的発達の問題が隠れている場合もあります。知的発達の状態によっては、日常生活の中で困ることはなくても、学校の学習になると難しさが出てくる場合があります。

次に考えられるのは授業や宿題の内容に興味がなかったり、やらなければいけないといった意識が低いということもあります。

宿題もノートもやるつもりはあり、そのうちやるつもりだったけど、時間的な計画が立てられずに、できずに終わってしまうようなこともあります。

これらの場合の背景には★「興味・関心の問題」例えば「自閉スペクトラム症」の特性が関係しているかもしれません。

★その特性として「社会性の問題」や「イメージネーションの問題」が出てくる場合もあります。

また宿題をやるつもりだったが、そのプリントを学校に忘れてきたり、黒板

を書き写していたけど、どこを書いていたか見失ってしまう
といった場合には★★ADHDのような「注意の問題」があるかもしれません。

お子さんによってはノートを書く時に、先生の話聞きながら書くことが難しいといったこともあります。

★この時には記憶力が関係しているかもしれません。

授業や先生の話はよく分かっているのに、教科書やプリントを読むのが苦手だったり、書くのにすごく時間がかかったりする場合には

★「読み書き」の問題があることもあります。

宿題をやらない、ノートを書かないことの背景にはこういったいろいろな問題が隠れている場合があります、

その1つだけが原因ではなく、★重複している場合も少なくありません。

学校の勉強がうまくいかない・・・

<確認しておけるといいこと>

知的発達ほどのくらい？

「興味」「関心」の問題、「注意」の問題はある？

興味・関心のないことには取り組みにくい

注意力・集中力が持続しにくい

段取り・切り替えが苦手

疲れやすい、感覚過敏



こうした特性も、学校で授業を受けたり、学習に向かう上での困難さにつながり、学力に影響が出やすい要因になっています

学校での勉強がうまくいかないと感じた時には、まずお子さんの状況を1つずつ考えていきましょう。

まずは知的発達の段階です。就学前に特総センターで検査を受けた方もいるでしょう。

生活の中のこと、友人関係に特に困ったことはなく過ごせていても、発達の遅れがある場合があります。

お子さんの知的発達が学年レベルに達しているかの確認ができるといいでしょう。

また興味・関心・注意の問題も学習をする上で大きな関係があります。

興味・関心のないことには取り組みにくい、注意力・集中力が持続しにくい、段取り・切り替えが苦手

疲れやすい、感覚過敏があるなど…

一見学習に関係なさそうな気もしますが、興味・関心のある／なしで取り組み姿勢に差のあるお子さんは、学校の勉強の内容によって取り組み姿勢に差が出てくるかもしれません。

集中が続かないお子さん、切り替えが苦手なお子さん、疲れやすいお子さんなども45分の授業を受けることが、お子さんにとって大変な場合もあります。こういった特性も学校で勉強をする上での困難さにつながり、学力に影響が



出る要因となります。

「読み」「書き」の問題・・・もしかして学習障害？

学習障害とは、全般的に知的発達に遅れはないが、
「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」のうち、
一つないし複数の特定の能力について、学習上、様々な困難に
直面している状態（文部科学省）

医学では限局性学習症（Specific Learning Disorder）
読字障害、書字障害、算数障害に分類



先ほどあげたような様子はないけど、学校の勉強がうまくいかない場合は文字の読み書きについても確認してみましょう。
学校の勉強はどうしても読んだり書いたりすることが必要になります。
その読んだり書いたりすることが特に難しいといった場合もあります。

読み書きが特に難しいお子さんの中に「学習障害」「LD」と言われる場合があります。

この「学習障害」ということばは、教育的な観点からみた「読み」「書き」の困難さを表していて、文部科学省では、全般的に知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」のうち、一つないし複数の特定の能力について、学習上、様々な困難に直面している状態、と定義しています。

医学的には、もう少し、狭い捉えで、限局性学習障害、という定義で、読字障害、書字障害、算数障害に分類されます。

ここからは・・・

☆ 「勉強」へのサポート
今回は特に「読み」「書き」について

それではここからは勉強、特に「読み書き」へのサポートについてお話しします。

「読み」のどこでつまづいている？

①「文字」を見て、それに対応する「音声」を想起する（音声化）

「や」「よ」「ゆ」「つ」を
間違える

漢字が読めない

②単語・文の区切りを認識する

逐字読みで区切り
がない

助詞の「は」の読み方
を間違える

③認識した単語や文から、意味を把握する（読解）

ことばで書かれている
ことをイメージしにくい

登場人物の心情が
わからない



まずは読みについて考えてみましょう。

「読み」の苦手なお子さんは、どこでつまづいているのでしょうか？

①「文字」を見て、それに対応する「音声」を想起する ことはできますか？

難しい言い方をしましたが、これは1文字ずつを正しく読めていますか ということです。

ここでよくあるのは小さい「やゆよ」や「つ」を間違いやすかったり、ひらがな・カタカナは読めても漢字が読めなかったりすることも上げられます

次に②単語や文字の区切りを認識できていますか？

文字を読むことはできても単語や文章になると1文字ずつ読んでしまう逐字読みになってしまい、ちょうどいい区切りがわからなかったり、助詞の「は・へ」などをそのまま「は・へ」とよんでしまったりすることもあります。

これだと読むことはできても、読んでいるお子さん自身も何を読んでいるかわかっていない可能性があります。

単語や文の区切りがわからない場合、その意味理解につながらないことが出てきます。

最後に③認識した単語や文から意味を把握していますか？

音読できて、その内容をちゃんとわかっていますか？

単語や文章としてきちんと読めていても「書きことば」は話しことばとは違うため、意味が分からなかったり、登場人物の心情が理解できなかったりする場合もあります。

読みのどこでつまづいているのか確認できるといいでしょう。

「読み」ながら「理解」することは難しい…

大切なのは理解や知識を保障すること！

文字→読む→知識を得る

勉強に取り組めるエネルギー



大人が代読

イラスト付き
で説明

動画で見る

お子さんなりの
手段でOK

「読み」の負担感を下げて、理解にエネルギーを向ける



「読み」の苦手なお子さんは、読みながら同時にその内容を理解する、と
いったことはとても難しいのです。

そういったお子さんに対して、こういった手助けをするのがいいのしょう
か。

学校の勉強をする中で大切なことは「理解できることを広げ、お子さんの知
識を得られるようにする」ことです。

「読み」が苦手なお子さんは、本から読んで知識を得る、ということが難し
くなります。自分から本や教科書を読もうとはしなかったり、がんばって読
んだとしても内容を理解することができなったりします。

つまり情報へのアクセスに壁がある、ということです。学習で大切なことは、
新しい知識を得て、色々な見方に気づいたり、そのことの考えを深めること
です。

お子さんが勉強に取り組めるエネルギー、いわば、集中して迎える時間は決
まっています。その使えるエネルギーの大部分を、例えば、文字を音に変え
る作業だけで使っている、としたら、どうでしょうか。その分、理解に向
けるエネルギーはわずかなため、がんばって読んだけれども、結果、よくわ
からなかった、、、という疲労感だけが残る、という結果になりがちです。
そのため、「読み」の苦手なお子さんに対しては、「読む」負担感を下げて、
できるだけ、理解にエネルギーを向けられるようにする、ということです。

例えば、大人が代読をしたり、読み上げだけではイメージしにくいお子さんには、イラスト付きで説明をしたり、さらには、読み上げだけでなく、動画で見る、ということも1つです。

苦手な「読む」作業が軽減でき、その負担感が下がれば、内容を理解することにエネルギーを向けやすくなるかもしれません。

「読み」の苦手さをサポート

大人が代読する

初めて読む文章は、事前に読み上げたものを聞くと、意味が理解しやすくなり、読みやすくなる。(音読の宿題は無理強いしない)

楽に読める・読みやすくなる工夫

漢字にふりがなを付ける

単語の区切りに線を引く

「いつもならさっそうとあるいている…」

「いつもなら／さっそうと／あるいている…」



読むことが苦手なお子さんに対するサポートを整理していきましょう。

まずは読むことを無理強いせず、大人の方で読んであげましょう。

特に初めての文章を読むことはかなり難しい場合があります。そういった時はまずは大人が読んであげて、どんな内容かを理解してもらい、読みのお手本を示しましょう。

音読の宿題については無理にさせない方がいい場合もあります。量を減らす、3分だけ読むなどの対応を担当の先生と相談できるといいでしょう。

またお子さんがラクに読めたり、読みやすくなる工夫もしましょう。

漢字にはふりがなを書いてあげるのもいいでしょう。鉛筆でふりがなを書き、お子さんに自信がついたら消すのもいいでしょう。

学年が上がると教科書の文字が小さくなったり、句読点以外の隙間がなかったりします。

一般的に3年生の教科書からは「分かち書き」がなくなります。

「分かち書き」というのは、単語ごと、助詞ごとに、少しスペースを置いて、意味をわかりやすく表記してあるもので、教科書自体に少し読みやすい工夫がされているのです。

ところが、3年生になると、その少しのスペースがなくなるため、自分で、意味の区切りを見つけなくてはなりません。

それを自分で見つけるのが難しいお子さんもいます。

そういった場合には句読点以外の語の区切りなどに線を入れてあげてるのも読みやすくなります。

「読み」の苦手さをサポート

ことばの意味を説明する

読めても、意味として理解できないことばは具体的に説明をする

（例：「心がはずむ」、「海が呼んでいる」）

イラストの併用

「行間」の部分を暗黙なく伝える

登場人物の心情を察したり、筆者の意図を推測することは
苦手なことも・・・

物語文では「」の会話は 誰のセリフなのかを
明示することも良いサポート。



また読み上げたものを聞いても、意味としてわからない、という場合には、一度に読む量が多い、抽象的なことばが多く、意味をつかみにくい、などの理由があると思います。

そんなときは読む量を減らし、お子さんがわかりにくい語彙について、具体的に説明をしてあげられるといいでしょう。

「心がはずむ」といった比喻表現や、「海が呼んでいる」といった擬人化での表現、「目玉が飛び出る」といった慣用句など、丁寧に意味を伝えるとよいと思います。

ことばの説明ではイメージできない時にはイラストなども使っていけるといいと思います。

物語文では、登場人物の心情や、関係性などがわかりにくく、話がつかみにくいこともあります。

文章に書いていない行間から登場人物の心情を察したり、筆者の意図を推測したりすることはより難しくなっていきます。

その場合は、どういった登場人物が出てくるのか、お互いにどういう関係なのか、相関図を使って説明をしたり、誰のセリフなのかを明示して書いておくことも、理解を助けるサポートになるかと思います。

「書き」の苦手さを考える前に・・・



「書き」の苦手さの前提として・・・

授業内容の意味が理解できていないと書けない

→現在の単元で扱っているテーマや語句が理解できているかどうかを確認。具体的に説明する。

読めない文字は書けない

「書き」の苦手さには、「読み」の問題が隠れていることが多々ある。

→読めない文字（特に漢字）を書き写すことは学びになりにくいので、読めているかどうか確認。漢字の読みが苦手な場合は、先生に板書にもふりがなを振ってもらう。



書くことの苦手さを考える前に、その授業の内容自体が理解できているのかどうか、を知っておく必要があります。

授業の中で「今日、勉強したことのでわかったこと」など、感想を求められた場合、自分の気持ちをことばにする、という書く前の段階で、つまづいていることもあるかと思います。

最初にお話ししましたが、読み書きについては、ことばで聞かれたことを理解したり、話す、説明する力が必要なのですが、そこに苦手さがあると、何を書けばいいのかわからないので、書けない、ということになります。

学校の勉強の中ではどの教科の中でも「書く」ことが必要になります。そのため「書けけない」ことを心配される方が多いのですが、お子さんの様子をよく見てみると、「書けない」お子さんの中に、まず「読めていない」場合がよくあります。

何となく読めていることや、その時は読めていても、学習としては定着しないなど、読みの問題も隠れているお子さんは少なくありません。

読めない場合は、やはり書くことも難しくなります。

「書く」ことの難しさが心配な時は、「読み」の様子も確認しましょう。

「書き」の苦手さをサポート

書く量を減らし、授業中は「聞く」ことに集中

板書はプリントやタブレットの撮影で対応

連絡帳はプリントでもらう

漢字を書く負担を減らす

マス目の大きいノートを使う

漢字学習の難易度を下げる、量を減らす

→まずは生活の中で、よく目にする単語、意味が
わかっている単語の漢字を読めることを目標に



書くことが苦手なお子さんのサポートについても考えていきましょう。
書くことが苦手なお子さんに、みんなと同じだけ書かせることはかなり大きな負担となります。できれば板書や連絡帳などはプリントにしていただけるよう先生と相談してみましょう。

板書についてはタブレットで撮影するのも1つの手段です。

書く負担を減らし、授業は先生の話聞くことに集中できるといいでしょう。お子さんによっては2つのことを、同時にすることが苦手な場合もあります。そういった子に先生の話しを聞きながら、黒板に書かれていることを書き写す、という課題は、とても難しいです。

聴くこと、書くこと、どっちを取るか？といわれれば、これは聴くことになるのかな、と思います。

というのも、学習で大切なことは、その授業の内容を理解すること、そして、その教科の中で伝えられた知識を習得することです。

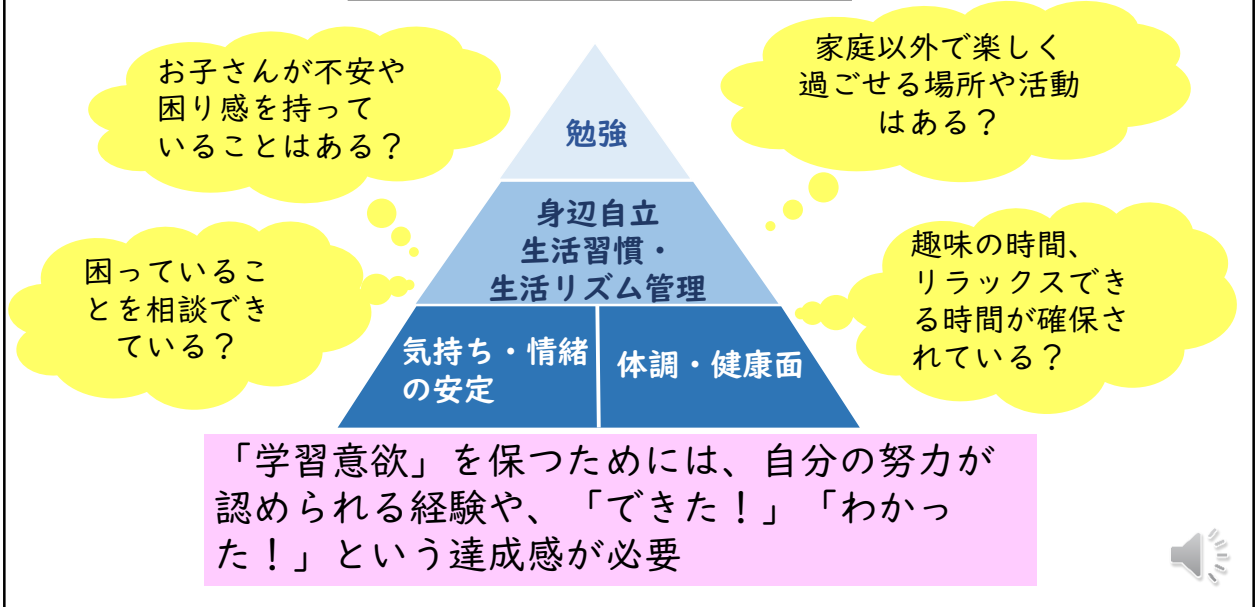
そのため、板書を求めることで、授業の内容を理解できなくなってしまうのであれば、板書の負担を減らすことを考えましょう。

マス目の大きいノートを使うなども、お子さんの負担感を下げる支援になるかと思います。

また、お子さんにとって、漢字ドリルの負担感が大きい場合は、宿題内容の見直しが必要かと思います。

学年相当の漢字の学習も大切ですが、漢字の難しさがあるお子さんの場合、生活の中でよく見る漢字の学習から始められる方がいいでしょう。普段よく見る漢字が読めて、意味がわかることが大切です。

気持ちの安定が基盤



小学生のお子さんにとって勉強は大切なことですが、その勉強をするための生活面、気持ちや体調はより重要な基盤になります。

学校の勉強で新しいことを学ぶ、取り組むという時に、一番大事なものは、気持ちが安定しているか、それを学ぼうとする意欲があるか、ということです。そこが、ととのわない中で、勉強を求めても、当然ながら、うまくはいきません。むしろ、気持ちが安定していない中で、さらに、お子さんに負荷をかけていくと、余計、こじれてしまうことになります。そうすると、さらに、勉強に向かわなくなる、学習の意欲が低下する、という悪循環に陥ることもありえます。

お子さん自身が「やってみよう」「がんばろう」という意欲を持つためには、お子さんの頑張りがほめられたり、認められたりした経験をし、そこから達成感を持つことが必要になります。

お子さんの学びへの支援の考え方

一般的・「一律の」学習

みんなと同じ方法で
同じようにできるように
がんばれ！

がんばりすぎると…

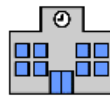
疲労、ストレス
意欲・自己肯定感の低下の心配

予防
軽減

お子さんに合わせた学習を進めていくためには



連携



担任の先生
児童支援専任
スクールカウンセラー
校長・養護教諭
いろんな先生に相談を！

学校の「理解」と「協力」は不可欠

お子さんの「得意」を活かし、それぞれに合った・分かりやすい方法で
学習できた体験を積み重ねる



学校の勉強がうまくいかないと感じているお子さんに対して、周りのみんなと一緒にやり方ががんばるのは難しいのかもしれません。合わないやり方ががんばりすぎてしまうと、ただただ疲れてしまったり、がんばってもできないことでのストレスを感じてしまうかもしれません。それが積み重なることで持っていた意欲も低下したり、「どうせ自分なんか…」と自己肯定感を持てなくなってしまうこともあります。

みんなと同じやり方、「一律の」学習ではなく、お子さんそれぞれに合わせた学習を進めていくためには、どうしても学校の理解と協力が不可欠です。学校には担任の先生だけでなく、児童専任の先生やスクールカウンセラーの先生などいろんな先生がいらっしゃいます。先生たちとも相談を重ねながら、お子さんの得意を活かし、お子さんにわかりやすい方法で学習を積み重ねていけるようにしていきましょう。そういったお子さん自身が「できた」と感じられる経験を積み重ねていくことで、お子さんが意欲や自己肯定感を下げないように予防していきましょう。

ご清聴ありがとうございました

